

編集後記

研究室短信

『社会学ジャーナル』45号を刊行することになりました。博士後期課程修了者の就職問題は大学院重点化以来深刻化してきました。論文生産性を上げ博士論文を3年間で書くことも課題となってきたことを受けて、院生と教員が参加する博論コロキウムが今年度から立ち上げられ、博論構想について活発な議論が交わされる場が作られました。『社会学ジャーナル』は既に2名の査読者による査読体制になっていますので、『社会学ジャーナル』と博論コロキウムをうまく活用して、研究のさらなる活性化がなされることが期待されるところです。

大学院人文社会科学研究所国際公共政策専攻における博士論文の提出者と題目は以下の通りです。

岡村 逸郎「犯罪被害者支援の言説に関する社会問題の社会学——被害定義の管轄権をめぐる法学者と精神科医の関係の歴史的形成過程」

大学院人文社会科学研究所国際公共政策専攻における修士論文の提出者と題目は以下の通りです。

大和田理史「「ひきこもり」への主体化と自己物語に関する社会的考察」

小川慶一郎「災害時に機能する地域コミュニティに関する研究——岩手県宮古市立宮古小学校避難所を舞台にした考察」

牛 雅婷「歴史観光都市「舞鶴」の誕生と現在——混在する軍港の記憶と引揚の記憶」

呉 丹「女性同性愛者の「主体」形成に関する考察——当事者のライフストーリーに着目して」

千葉 裕平「生活困窮世帯の子どもの学習支援実践における教育／福祉の論理——支援者らの概念の運用に注目して」

畑 佳恵「児童養護施設による家族再統合支援実践の「専門性」に関する研究——家庭支援専門相談員の「語り」に着目して」

楊 柳「中国において有害動漫が構築されたプロセスに対する考察——外部クレーム申立て者と内部クレーム申立て者の言説から見る」

他専攻に御所属の先生方により、学類共通科目として、以下の授業科目をご担

当いただきました。

令和元年度社会学研究室的各教員の学類および大学院において開設した授業科目は以下の通りです（社会学類／大学院人文社会科学研究科）。

- 全 教 員 = 社会学の最前線, 卒業論文演習, 卒業論文／国際公共政策専攻リサーチワークショップ, 社会学基礎理論, 国際公共政策専攻プロジェクト演習Ⅲ
- 五十嵐泰正 = 都市社会学, 社会学研究法 A, 社会学研究法Ⅳ a／国際公共政策論, 都市社会学Ⅱ, 都市社会学演習Ⅲ, 都市社会学特別演習Ⅲ
- ウラノ・エジソン = Transnational Social Policy, Social Issues in Contemporary Japan, Public Policy, 社会学演習Ⅷ a／国際公共政策論, 国際社会政策論Ⅱ, 国際社会政策論演習Ⅲ, 国際社会政策論特別演習Ⅲ（以上, 大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻）, 地域調査法Ⅲ, 公共政策論Ⅴ, 国際社会学Ⅴ, ラテン・アメリカ研究演習Ⅱ - A・B, ラテン・アメリカ研究演習Ⅲ - A・B（以上, 大学院人文社会科学研究科国際地域研究専攻）
- 奥山 敏雄 = 病いと死の社会学, 社会学研究法 B, 社会学演習Ⅱ a／医療社会学Ⅱ, 医療社会学演習Ⅲ, 医療社会学特別演習Ⅲ
- 葛山 泰央 = 現代社会学の系譜, 社会学研究法 B, 社会学外書講読, 社会学演習Ⅲ a／知識社会学Ⅱ, 知識社会学演習Ⅲ, 知識社会学特別演習Ⅲ
- 土井 隆義 = 現代社会論, 社会学演習Ⅶ a／逸脱行動論Ⅱ, 逸脱行動論演習Ⅲ, 逸脱行動論特別演習Ⅲ
- 野上 元 = 社会学基礎論, 戦争と社会, 社会学研究法 A, 社会調査実習Ⅰ a／歴史社会学Ⅱ, 歴史社会学演習Ⅲ, 歴史社会学特別演習Ⅲ
- 黄 順姫 = 教育社会学, 社会学演習Ⅴ a, グローバル共存・共生（全学共通, 科目担当及びコーディネーター）／教育社会学Ⅱ, 教育社会学演習Ⅰ, 教育社会学特別演習Ⅰ（以上, 大学院人文社会科学研究科）, 文化社会学Ⅰ・Ⅱ, 社会調査実習（以上, 大学院教育研究科）
- 森 直人 = 労働社会学, 社会学演習Ⅸ a／労働社会学Ⅰ, 労働社会学演習Ⅲ, 労働社会学特別演習Ⅲ（以上, 大学院人文社会科学研究科）, 社会学演習Ⅰ・Ⅱ, 公民教育研究法Ⅰ・Ⅱ（以上, 大学院教育研究科）

このほか, 他専攻にご所属の先生方（敬称略）により, 学類共通科目として, 以下の授業科目をご担当いただきました。

海後 宗男 = コミュニケーション論
清水 論 = スポーツ社会学
金子 史弥 = スポーツ社会学
下竹 亮志 = スポーツ社会学
前川 啓治 = 文化・開発論

今年度非常勤講師として、以下の先生方（敬称略）にご出講いただきました。
篤くお礼申し上げます。

樽川 典子 = 家族社会学

[以上，社会学類]

天田 城介（中央大学） = 社会調査方法論 I

樽川 典子 = ジェンダー社会論

[以上，大学院人文社会科学研究所]

『社会学ジャーナル』投稿規定

[2018年2月改正]

- 1 筑波大学大学院人文社会科学研究所国際公共政策専攻所属の教員及び大学院生等は、『社会学ジャーナル』（以下「本紀要」という。）に論文等を投稿することができる。大学院生等による投稿については、原則として、修士論文審査に合格していることを要件とする。
- 2 投稿される論文等は、未発表のものに限る。他の学術雑誌等に投稿中の論文は、本紀要に投稿することができない。
- 3 本紀要に掲載された論文は、筑波大学電子図書館（つくばりポジトリ）において公開するものとする。
- 4 掲載原稿は、研究論文、研究ノート、講義ノート、資料紹介、書評論文、書評とする。その他については、本紀要の編集委員会が決定する。
- 5 編集委員会は、本専攻所属の教員等に対して、論文その他の投稿を依頼することができる。
- 6 使用言語は、原則として、日本語又は英語とする。その他については、編集委員会が決定する。
- 7 外国語による執筆を希望する場合には、投稿者は、自己の責任において、当該言語を母国語とする者による言語上の校正を受けた上で、投稿することができる。
- 8 投稿原稿が日本語の場合には、欧文（英文）タイトルを付すること。
- 9 研究論文及び研究ノートについては、冒頭に英文の要約（200字程度）を含めること。
- 10 投稿原稿は完成原稿とし、編集委員会あてにハードコピーを3部及び研究倫理についての所定の様式誓約書を1部提出すること。併せて、同委員会あてに電子ファイルを送信すること。
- 11 本紀要は、研究論文及び研究ノートについて原則的に、レフェリー2名による査読を実施する。大学院生による投稿については、草稿が投稿に足る水準に達しているか否かを指導教員が確認し、所定の用紙に署名・押印したうえで、投稿原稿に添えて期日までに編集委員会に提出する。掲載可否は編集委員会が決定する。
- 12 執筆者には論文等の抜刷を50部配布し、それ以上の抜き刷りを必要とする場合は、実費を徴収する。

その他不明な諸点については、下記の編集委員会にお問い合わせください

連絡先：『社会学ジャーナル』・編集委員会
筑波大学大学院人文社会科学研究科 社会学研究室
305-0006 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
電話番号：029-853-4247
ファクス：029-853-4098